

平成30年度第3回 感染症発生動向調査部会  
議事要旨

1 日 時 平成30年6月20日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長）  
大西 秀典（岐阜大学医学部附属病院 新生児集中治療部 准教授）  
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 講師）  
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長）  
和泉 孝治（岐阜県産婦人科医会）  
オブザーバー：川部 京子（岐阜市保健所地域保健課 感染症対策係長）  
事 務 局 : 居波 由紀子（保健医療課 感染症対策係長）  
上津 ひろな（保健医療課 主任技師）  
田村 直彦（保健環境研究所 疫学情報部長）  
酢谷 奈津（保健環境研究所 専門研究員）

4 議 題 （進行：大西委員）

- (1) 2018年第18週～第22週、5月の感染症発生動向について
- (2) その他情報提供

5 議事要旨

【2018年第18週～第22週、5月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの報告と委員のコメントについては資料のとおり。  
(委員からのその他のコメント等)
- ・定点の選定については、STD 定点に限らず、二次医療機関以上を定点とすることが適当なのか再考が必要と思われる。  
→ (事務局) 定点の見直しについては、他県の状況も情報収集しながら進めたい。
- ・侵襲性肺炎球菌感染症について、サーベイランスの目的として、ワクチン導入の影響をみることも含まれるのであれば、国または県において血清型別の把握をきちんと行う体制を構築することが望ましい。

【その他情報提供】

- ・事務局（保健環境研究所）から百日咳の届出状況について情報提供
    - ・資料に基づき、全国および岐阜県の届出状況について説明。
- (委員からのコメント等)

- 百日咳の診断方法として小児では LAMP 法、成人では抗体検査が多くを占めるのは、検査の目的が、主に小児では急性感染症の診断、成人では慢性咳嗽の鑑別にあることが背景にあるのではないか。
  - より質の高いサーベイランスを行うために、届出ガイドラインの内容を周知することが必要。また、百日咳に限ったことではないが、臨床医に対して、届出された情報がどのように国の施策に活用されているのか等、サーベイランスの目的を理解してもらうように情報を届ける必要がある。
- 
- 事務局（保健医療課）から下記感染症関連通知等について情報提供
    - 麻しんの予防接種の推奨の周知について
    - ダニ媒介感染症に係る注意喚起について
    - 「ハンセン病パネル展」を開催